

令和 3 年 6 月 25 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02440

研究課題名(和文) 中近世日本における画題享受史の構築

研究課題名(英文) Constructing a History of the Reception of Painting Themes in Medieval and Early Modern Japan

研究代表者

齋藤 真麻理 (SAITO, MAORI)

国文学研究資料館・研究部・教授

研究者番号：50280532

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：中近世日本における画題享受の諸相を明視するため、具体的な手がかりとして、17世紀の狩野派における「戯画図巻」制作に着目し、国内外に点在する諸本調査を精力的に推進して、10余本の伝本を発見した。そこに描かれた画題を整理・分析した結果、「戯画図巻」における室町物語や江戸初期風俗画、明代出版文化の受容の諸相が浮かび上がってきた。並行して、明版受容を視野に入れた奈良絵本の調査研究を進めた。これらの分析結果をあわせみ一連の研究から、「戯画図巻」の文学的意義や奈良絵本の制作享受圏との近しさ、中近世日本の画題生成と展開、それを支えた学芸のすがたが浮き彫りとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本において最大の絵師集団を形成し、近代まで400年、画壇を独占したのが狩野派である。17世紀には諧謔性の強い「戯画図巻」が多数制作されたが、従来、本格的な研究は行われてこなかった。本研究では国内外に点在するその伝本を精力的に調査・発掘し、そこに描かれた画題を文学的手法によって分析することで、「戯画図巻」が奈良絵本の制作享受とも密接に関連することを指摘した。一連の研究により、「戯画図巻」研究の基盤が整い、その文学的・文化史的意義や、中近世日本における画題享受の諸相が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：To clarify the various aspects of the reception of painting subjects in medieval and early modern Japan, I focused on the production of Caricature Scrolls (Giga zukan 戯画図巻) by the Kano school in the 17th century, promoted the survey of various manuscripts scattered in Japan and abroad, and discovered more than ten manuscripts. As a result of organizing and analyzing the subjects depicted in these works, many aspects of the reception of Muromachi tales, early Edo genre painting, and Ming dynasty publishing culture in Caricature Scrolls have emerged. In parallel, I researched with a view to the acceptance of Ming Dynasty books in Nara Ehon. These studies have revealed the literary significance of Caricature Scrolls, their proximity to the sphere of production and enjoyment of Nara Ehon, the creation and development of painting subjects in middle and early modern Japan, and the state of the arts and learning that supported them.

研究分野：日本文学

キーワード：戯画 説話 奈良絵本 画題 類書 絵巻

1. 研究開始当初の背景

中近世の文芸は、多様な作品が奈良絵本等の絵入り本として享受されたように、文字と絵画の交錯が大きな特色であった。近年、このような問題への関心は学界において大いに高まっており、精力的な文献調査が進んでいる。在外の絵入り本のコレクション研究もめざましい発展を遂げているといえよう。そうした蓄積の上に、写本間や諸本の比較研究に留まらず、奈良絵本等の絵画表象と版本文化との関連性を精査する必要があった。

とくに、16世紀から17世紀にかけて陸続と舶載された明代版本については、五山文学や狩野派をめぐる個別事例研究が文学・美術史分野を中心に行われているものの、これが室町物語や奈良絵本の生成にも多大な影響を及ぼした事実についてはほとんど検証が進んでいない。

従って、奈良絵本をめぐる、より広い視野から明代版本受容の具体を検証することは、その制作背景を考究する上でも有効と思われる。そもそも奈良絵本は奥書等を有していないことから、制作の実態の全容も解明されていない。明代の出版文化からの摂取などを顧み、画風や画題に着目して分析することは、奈良絵本の制作享受圏を明視することにもつながる可能性がある。

このようなジャンル横断的な観点は、新たな画題研究の構築を可能にするものと考えられる。とりわけ、奈良絵本と同時代の17世紀に集中して制作された狩野派の「戯画図巻」は、室町物語や奈良絵本からも素材を得ており、奈良絵本研究にとっても、また、中近世日本における画題研究にとっても重要な位置を占めている。しかし、諸本の網羅的な研究も備わっていないのが研究開始当初の状況であった。

2. 研究の目的

上記の研究状況に鑑み、本研究ではジャンル横断的な画題研究を企図し、これまで個別具体的に進められてきた奈良絵本研究と17世紀の狩野派で制作された「戯画図巻」研究をあわせみること、中近世日本における画題の生成と展開の検証を行い、新たな画題享受史の構築をめざすこととした。

従来、「戯画図巻」制作に関する研究は手薄であったことから、まずその基礎的な調査研究を推進して研究基盤を整備することとした。その上で、本作に描かれた画題について文学研究の観点から抽出と分析を行い、「戯画図巻」が文学史上、どのような意義を有しているのかを解明し、かつ、奈良絵本との交流の実態を検討することとした。並行して奈良絵本については明版受容を視野に入れた調査研究を進め、両者の調査結果の分析によって、五山僧や御用絵師、奈良絵本の制作者等が共有していた画題の享受をめぐる諸相を明視し、その文化圏についても考究することとした。

3. 研究の方法

本研究の特色は以下の2点を基軸として構想した点にある。

第一に、およそ400年の長きにわたる広範な狩野派の営為の中から「戯画」に焦点を絞った点である。

江戸時代前期、17世紀の狩野派の御用絵師らによって「戯画図巻」と総称すべき諧謔性と祝言性の強い作品が多数制作された。御用絵師の中には室町物語の絵本・絵巻の制作者として知られる人物も含まれており、実際、「戯画図巻」には室町物語を活用した一面を見出すことができる。従って「戯画図巻」と室町物語の絵巻類の制作の場は何らかのかたちで接続し、相互に作品形成の過程に影響を及ぼし合っていた可能性が高い。しかし、「戯画図巻」については、文学はもとより美術史の分野でも十分な諸本研究がないため、まず国内外の諸本調査を集中して行い、室町物語等との比較分析を行いつつ、画題を抽出・分析することとした。

第二は、中国明代の版本、とくに日用類書などを中心とした調査研究である。これらの類書は膨大かつ雑多な知識の集積体であり、多くの挿絵を伴うことから、舶載されるや江戸時代前期の知識人の耳目をひいたと思しく、美しい奈良絵本に仕立てられた例が散見する。すなわち、明代版本の挿絵と言説は中近世日本における画題とも密接に関わっていると推測されるのであり、多種多様な日用類書をはじめとする明版の調査を行い、とくに室町物語や「戯画図巻」とも関わりの深い故事人物等の言説と絵画表象の関連性について分析を行うこととした。

以上の分析結果については五山詩に詠みこまれた画題にも照らして検証を行い、中近世日本における画題生成と展開の諸相を考察することとした。

4. 研究成果

「戯画図巻」の諸本調査を精力的に進め、国内外に10本余の伝本を発見することができた。徳川美術館本(伝狩野探幽)、個人蔵本(狩野探幽筆)、個人蔵本(狩野永納筆)、福岡市美術館本(狩野昌運筆)、國學院大學本(狩野昌運筆)、ギメ美術館本(狩野為信筆)、大英博物館本(狩野周信筆)、武蔵野美術大学本、耕三寺博物館本、東京藝術大学美術館本等である。また、架蔵に一本を収めることを得た(伝狩野周信寫。「光信狂画圖」一巻)。

これらの諸本系統を検討・整理するとともに、そこに描かれた故事人物画の画題を抽出し、研

究を進めた。詞書を持たない「戯画図巻」は各要素を自在に組み替えることができるため、写し崩れを起こした部分もしばしば認められる。こうした小異の分析はむしろ重要であるが、その一方で、伝本の先後関係や系統論とは別に諸本の現状そのままの姿からどのような制作企図を読み取ることができ、享受のありようを推測できるのかを考えてゆくことも重要な観点であると思われた。

そのような観点から仙人をめぐる表象を分析した結果、「戯画図巻」が『仙仏奇踪』などの明代版本を受容した具体相が浮かび上がってきた。そのみならず、室町物語『富士の人穴の草子』や『曾我物語図屏風』、「洛中洛外図」等に繰り返し描かれた三十三間堂の通し矢の風俗など、濃厚な当代性や、先行の文芸や慣用表現を俳諧連歌風にとりなす遊びの趣向が縦横に織り交ぜられていることも明らかとなった。

このように、17世紀といういわば中近世の結節点に立つ「戯画図巻」は、版本がもたらす新たな知識に感応し、異代同戯の世界を描き出している。和漢の故事人物や異類が数多く集うこと自体のめでたさ「万物衆夥」がこの楽土を形づくっているのであり、そこにはたとえば『仙仏奇踪』をそのまま写すのではない「写しを超えた遊びの趣向」が現出している。こうした知的遊戯こそが本作の生命なのであり、それは各場面の構成要素が内包する文学的や説話的奥行き、古典性を読み解く鍵ともなっているのであった(論文「故事を遊ぶ」「戯画図巻」という文芸」(『古典の未来学』文学通信、2020年10月)。

また、人物画題の一例として「布袋」の画題にも注目し、布袋信仰とその表象が室町物語『酒呑童子』の底流に痕跡を留めていることを突き止め、『酒呑童子』の物語世界の構築の論理と特質を論じた(研究発表「『大江山絵巻』とその周辺」国際シンポジウム「日本の絵ものがたりの世界」於アイルランド・チェスター・ピーターライブラリィ、2017年8月)。これについては改めて論文化を計画している。

さらに、玄宗皇帝絵の画題分析と狩野派の画論の検証とを行い、室町物語『付喪神絵巻』所見の漢詩四首や、岩佐又兵衛風絵巻群として夙に名高い優品『むらまつ』の画中画、国立国会図書館蔵『花いくさ』等に玄宗皇帝絵の画題が活写され、物語世界を形成する一助となっていることを見出した(論文「室町物語と玄宗皇帝絵『付喪神絵巻』を起点として」『和漢のコード 十六、七世紀の日本を中心に』勉誠出版、2020年3月)。なお、『付喪神絵巻』の漢詩については本作が描き出す都市空間の境界性の問題と併せて、英文オンラインジャーナル *Studies in Japanese Literature and Culture* に“*Tsukumogami emaki and Urban Spaces*”を寄稿した(2020年3月)。

明代日用類書と室町物語の連関をめぐっては、『御曹子島渡り』を例として奈良絵本が明代版本から得られる知識を取り込んだ具体相を指摘した。この作品は、これまで伝本僅少とされ、横型奈良絵本の存在は知られていなかった。しかし、近年、三巻本の豪華絵巻が発見され、断簡ながら横型奈良絵本の作例も複数報告されるなど、この作品が人気を博していたことが明らかとなった(論文「渡海の絵巻 いけのや文庫蔵『御曹子島渡り』」(『国文学研究資料館紀要』文学研究篇44、2018年3月)。本作においては、御曹子義経が「島渡り」をする部分に明代日用類書が語る「異国」の言説と絵画表象が取り込まれている。「島渡り」はまさに室町物語が原話から成長を遂げた部分と考えられ、そこに明代版本のもたらした新たな知が活用されたと推測されるのである。以上については、平成30年度説話文学学会大会のシンポジウム「判官物研究の展望」(2018年6月16日)で口頭発表を行い、論文として公刊した(『御曹子島渡り』と室町学芸」(『説話文学研究』54、2019年9月)。

さらに近世初期風俗画の画題や定型表現に目を向ければ、それらが岩佐又兵衛風絵巻群の一作品『むらまつ』に巧みに利用されていることが看取された。『むらまつ』の描く長大な海道風景は本作が制作された歴史的・文化的背景と無縁とは思われない(『絵解く 戦国の芸能と絵画 描かれた語り物の世界』所収、三弥井書店、2019年)。

以上の画題をめぐっての研究と並行して、天理図書館等の奈良絵本調査を行い、奈良絵本と明代版本との位置関係などを考究した。成果の一端は新天理図書館善本叢書『新奈良絵本集』1・4・7・8巻(2019年~2020年、八木書店)に解題として公表した。

その過程において東京大学総合図書館蔵の奈良絵本『山海異形』が天理図書館本のツレであることも判明し、「東京大学総合図書館蔵『山海異形』について」(国文学研究資料館『調査研究報告』41、2021年3月)に資料紹介を兼ねて発表した。同じく天理図書館蔵『大古久まい』の検証の過程では、室町物語『大黒舞』諸本の中に、他の室町物語の奈良絵本と人物の面貌表現が酷似する作例が複数存在することを見出し、在外の奈良絵本を含めた複数の伝本が同一または同系統の工房で製作された可能性を指摘した。併せて風俗・風景描写の特徴から、祝言性に満ちた『大黒舞』という作品の成立背景に子易信仰があることを突き止め、本作が女性への予祝の物語として制作された可能性を論じた(『大黒舞』小考』国文学研究資料館』文学研究篇47、2021年3月)。

こうした一連の研究によって「戯画図巻」の基礎的研究が進み、また、「戯画図巻」の文学的・文化史的意義も明らかとなってきた。同時に「戯画図巻」と奈良絵本の制作享受圏の近しさや、明版受容を視野に入れた中近世日本の画題生成と展開、延いてはそれを支えた学芸の姿などが浮き彫りとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 齋藤真麻理	4. 巻 41
2. 論文標題 東京大学総合図書館蔵『山海異形』について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国文学研究資料館『調査研究報告』	6. 最初と最後の頁 177-196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 齋藤真麻理	4. 巻 4
2. 論文標題 Tsukumogami emaki and Urban Spaces	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Studies in Japanese Literature and Culture	6. 最初と最後の頁 147-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 齋藤真麻理	4. 巻 47
2. 論文標題 『大黒舞』小考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要 文学研究篇	6. 最初と最後の頁 97-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 齋藤真麻理	4. 巻 54
2. 論文標題 御曹子島渡りと室町文芸	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『説話文学研究』	6. 最初と最後の頁 22-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤真麻理	4. 巻 44
2. 論文標題 渡海の絵巻 - いけのや文庫蔵『御曹子島渡り』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要 文学研究篇	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 齋藤真麻理
2. 発表標題 異形を描く物語絵-その表象と展開-
3. 学会等名 チェスター・ピーティアー・ライブラリィ蔵絵巻・絵本の最新研究
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤真麻理
2. 発表標題 『御曹子島渡り』と室町文芸
3. 学会等名 説話文学会 大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤真麻理
2. 発表標題 故事を遊ぶ 戯画図巻の時空
3. 学会等名 ワークショップ「和漢の故事人物と自然表象」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤真麻理
2. 発表標題 デジタル画像がひらく物語絵研究
3. 学会等名 EAJS (プレイベント)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齋藤真麻理
2. 発表標題 『大江山絵巻』とその周辺
3. 学会等名 シンポジウム「日本の絵ものがたりの世界」
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 桜井宏徳・金容澈・金秀美・谷川恵一・齋藤真麻理・宋浣範・ギョーム・カレほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 200
3. 書名 東アジアにおける知の往還	

1. 著者名 東洋文庫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 200
3. 書名 岩崎文庫の名品 叡智と美の輝き	

1. 著者名 荒木浩・渡部泰明・河野貴美子・エドアルド・ジェルリーニ・齋藤真麻理ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 872
3. 書名 古典の未来学	

1. 著者名 小林健二・糸汐里・鈴木彰・龍澤彩・石川透・酒井公子・恋田知子・齋藤真麻理・谷川ゆき・下原美保・海野圭介	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 213
3. 書名 絵解く 戦国の芸能と絵画 描かれた語り物の世界	

1. 著者名 石川透・齋藤真麻理	4. 発行年 2020年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 338
3. 書名 新天理図書館善本叢書30 奈良絵本集8	

1. 著者名 石川透・齋藤真麻理	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 224
3. 書名 新天理図書館善本叢書29 奈良絵本集7	

1. 著者名 石川透・金光桂子・齋藤真麻理	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 248
3. 書名 新天理図書館善本叢書26 奈良絵本集4	

1. 著者名 石川透・齋藤真麻理・恋田知子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 226
3. 書名 新天理図書館善本叢書23 奈良絵本集 1	

1. 著者名 深沢真二・大谷俊太・齋藤真麻理ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東洋文庫	5. 総ページ数 230
3. 書名 岩崎文庫貴重書書誌解題	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------